

## 総合コース618「インターネット」の内容と教育効果

雄山真弓

関西学院大学

高田茂樹

岐阜聖徳学園大学(元関西学院大学)

関西学院大学では、全学開講の総合教育科目を「総合コース」と名付けて毎年20科目以上提供している。総合コースの目的は、専門分野にわたって1つの共通主題を設定し、それに関する多面的で総合的な知識を提供するものである。総合コース618 インターネット「今、ネットワーク社会で何が起きているか?」は、その1つであり、1997年の春学期と1998年の春学期の2回開講した。受講の対象は全学生で半期終了科目(2単位)である。内容は、インターネットの仕組みや通信の基本概念、ネットワーク上で、今何が行われているか?、また行われようとしているか?、ネットワークを使う上で、情報作法や著作権の問題などについて、様々な角度からインターネットをテーマに授業を展開した。講師は、大学から5人、企業から5人である。企業からの講師は、実際にインターネットを使って、新しい社会の仕組みの構築を行っておられる方々である。学生の受講希望は多く、教室の大きさ制限で設けた定員(272人)を越える学生が申し込んだ。本報告では、このユニークな授業の内容と学生に与えたレポートの課題とその反応結果をふまえて、総合コース618がどのような教育効果をもたらしたかについて述べる。

## The Contents and Educational Effects of General Course 618 "Internet"

Mayumi Oyama

Kwansei Gakuin University

Shigeki Takada

Gifu Shotoku Gakuen University

(A former member of Kwansei Gakuin University)

Kwansei Gakuin University offers more than 20 courses as "general courses" to the entire university community. The purpose of these general courses is to offer unified knowledge covering the topics common to all the faculties (colleges) within the university. One such course is General Course 618 "Internet—What is happening in a network society?" This was planned and offered as a 2-credit course by the authors in collaboration with other interested faculty members in the spring terms 1997 and 1998. It was open to all the students on basic concept of communication, the present use of network, the future potentiality of network, and the protection of authorship and copyright in the use of network. Four lectures from Kwansei Gakuin and six lectures from industries participated in this project. A large number of students registered for this course overflowing the 272-seat lecture hall. This is a summary report on the contents of this unique course, on the assignments given to the students, on the evaluation of the course by the students, and on the educational effects of this new course.

## 1. はじめに

関西学院大学では、総合教育科目の中に「総合コース」という名前で、毎年20科目以上の授業を開講している。これらの目的は、総合教育科目の充実にあるが、社会の変化による、研究・技術の動向を理解する力と、新しい学問分野の開拓に重点を置いている。さらに、多人数学級の授業を質的に強化し学習能率を高めるために、積極的に視聴覚機器等の活用も行っている。開講は大学の教務課が、全教員に公募し、集まったテーマの中から、講義の要旨、担当講師などについて大学の委員会にかけて実施を決定している。毎年、人文・社会・自然の各分野の複数にわたる領域から、さまざまなタイトルをもつ「総合コース」が実施されている。

総合コース618「インターネット—今、ネットワーク社会で何が起きているか?—」は、筆者が代表となって、1997年の春学期と1998年の春学期の2回開講した。受講の対象は全学生で半期終了科目(2単位)である。内容の詳細は、次章で述べるが、インターネットの仕組みや通信の基本概念の理解からはじまり、ネットワーク上で、今何が行われているか?、また行われようとしているか?、ネットワークを使う上での情報作法や著作権の問題などについて、様々な角度からインターネットをテーマに授業を展開した。講師は、大学関係から5人、企業や非営利団体から5人で、構成した。学外からの講師は、実際にインターネットを使って、新しい社会の仕組みの構築を積極的に行っておられる方々をお願いした。学生の受講希望は多く、教室の大きさ制限で設けた定員(272人)の2倍以上の学生が申し込んだ。本報告は、このユニークな授業の内容と学生に与えたレポートの課題とその反応結果をふまえて、総合コース618がどのような教育効果をもたらしたかについて述べる。

## 2. 授業の目的と内容

総合コース618 インターネット 「今、ネットワーク社会で何が起きているか?」の講義要旨と内容を以下に示す。

インターネットの普及はこれまでの紙文化が行ってきた情報獲得や発信の方法と大きく異なる新しいインパクトを社会の様々なところに与え始めている。特に国境や思想、視覚などの壁が取り払われて情報を受発信できる意味は大きい。この講義はインターネットの仕組みや通信の基本概念を学びネットワーク上で、今何が行われているか、行われようとしているかを学習させる。さらに情報作法や著作権の問題についても学ぶ。講義の12コマの構成は以下のとおりである。

講義内容	担当者
1. 情報化の歴史的背景とインターネット	雄山真弓(関西学院大学教員)
2. 通信の仕組み	岡田孝(関西学院大学教員)
3. 情報の検索と発信の方法	高田茂樹(元関西学院大学教員)
4. インターネットとビジネス	岡本勝彦(阪急電鉄株式会社)
5. インターネットとコミュニティ	臼井義美(日本電子計算株式会社)
6. 電子図書館	砂原秀樹(奈良先端技術大学院大学)
7. 福祉とインターネット	竹中ナミ(プロップステーション代表)
8. 電子商取引と電子マネー	村松晃(日立製作所金融システム推進本部)
9. ネットワークコンピュータ	久晴彦(株式会社オラクルNC事業部)
10. ネットワーク社会における犯罪と法	荒川雅行(関西学院大学法学部)

- 11. ネットサーフィン報告会 (1)
- 12. ネットサーフィン報告会 (2) まとめ

雄山真弓  
雄山真弓

本講義は、インターネットを生み出した歴史的背景からはじまり、インターネットの基本概念、ネットワークの基礎知識、インターネットの使い方や情報発信、検索の方法等を最初の3コマで学ぶ。これによって学生は授業時間外で、大学のコンピュータでインターネットを利用する知識を得る。また、資料としてインターネット用語の解説を配布する。4回目の授業からは、インターネット上で何がわれ、または行われようとしているかを学んでいく。4コマ以降は、インターネットによる新しい情報発信の仕組みを構築している、または構築させておられる方々をジャンル別に分けて、それぞれの体験や将来展望などを含めてお話しいただく。さらに、情報社会の複雑さや可能性を学んだ後で、情報作法や著作権の問題などのネットワーク利用上重要な課題を教え、同時に情報社会の陰の部分としての情報犯罪について話を進める。最後の2コマはレポート課題の提起と実際学生が探した情報等を報告させる。

4のインターネットとビジネスでは、阪急電鉄が図1のようなホームページを作成し、新しいビジネスを展開していることに注目し、阪急のインターネットへの取り組みと、インフラストラクチャービジネスの要件、ソフトビジネスとは何か、さらに今後の方向性などについて講義を展開していただいた。

5. のインターネットとコミュニティは、インターネットの利用が爆発的に拡大する以前から講師自身が中心になって、関西電子共和国のホームページを開設しておられたことに注目して、その主旨や参加者とコミュニティの現状などについてお話しいただいた。電子共和国のホームページを図2に示す。電子共和国はバーチャル国家であり、バーチャル国家から現状の社会を考えると様々な可能性や制約がわかることは、教育的に意味があると思われた。

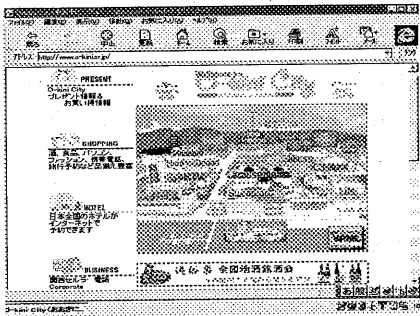


図1. 阪急オーキニシティ



図2. 関西電子共和国

6. の電子図書館は、実際に奈良先端技術大学院大学でシステムを作られた講師にお願いした。図3が奈良先端技術大学院大学の電子図書館のホームページである。1997年は電子図書館の話をしていただいたが、1998年は講師の希望で、ご研究のモバイルインターコンピューティングについてお話しいただいた。インターネットを使った最先端の技術で移動体からのインターネットの利用を実験の成果等からお話しいただいた。

7. の福祉とインターネットは、インターネットを活用してチャレンジドを納税者にする運動を精神的におこなっておられる講師をお呼びした。真の福祉とは何かを考える内容で、学生の反響は非常に良かった。インターネットが、チャレンジドにとって、仕事のためにもコミュニケーションのためにも重要な道具となっていることを学べたことは、大きな成果といえる。また、これまで人の世話になること

しか出来なかったチャレンジが講師の組織する非営利団体でコンピュータの訓練を受けることによって、自立し、インターネットを通じてプログラミングや、絵画像の作成などの仕事を得て納税者になった話は非常に感動的であった。図4はプロップステーションのホームページである。学生に授業中に必ずコメントを書かせているが、感動したというコメントが最も多かった。本学は、震災後、ヒューマンサービスセンターが設立され、ボランティア活動が盛んであるが、真のボランティアとは何かを学んだと信じている。

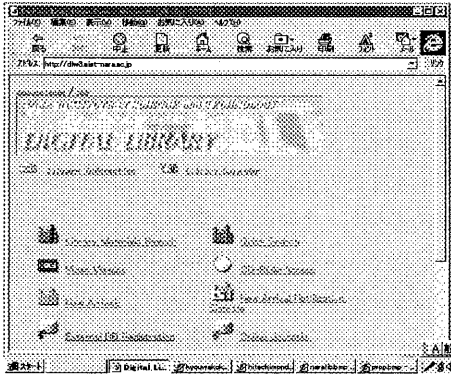


図3. 電子図書館 (奈良先端技術大学院大)

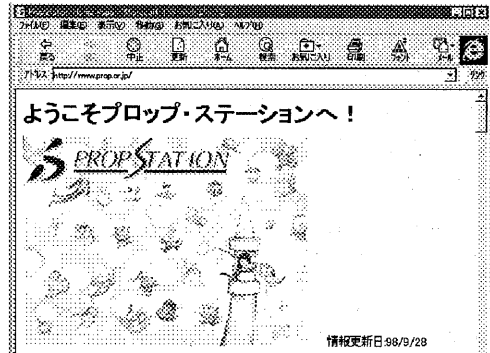


図4. プロップステーション

8. は、電子商取引と電子マネーで、モンデックスの推進を中心になって行っておられる講師に、電子商取引、電子決済、電子マネーについて現状と将来についてお話いただいた。電子商取引を行う上での相互認証の必要性や、電子マネーの分類、電子マネーを支える装置群、公開鍵暗号、鍵管理、電子マネーの背景と方向性、現状での実験など、受講生にとってはこれからの社会が電子マネーでどのように変化するかを、考えるきっかけが与えられたと考えている。(図5.)

9. は趣向を変えて、インターネットに接続する媒体としてのネットワークコンピュータについて、NCの推進をおこなっておられる人を講師としてお願いした。多機能のパソコンよりもインターネットを単なる情報ボックスと考えれば、NCのような手軽で安価なものが今後生活の中にどの程度はいつてくるのか、パソコンの今後の方向性も含めてお話をいただいた。



図5. 電子マネー(モンデック社のホームページ)

10. は、ネットワーク社会における犯罪と法で、本学の法学部の先生に講師をお願いした。犯罪と

刑罰に関する基本的視点として、罪刑法定主義（法律なければ犯罪なく、刑罰なし）、謙抑主義(刑法の自己規制)と人権の尊重を3つ上げてから、昭和62年の刑法改正では、電磁的記録に関する犯罪では、文書偽造や、業務妨害、詐欺などの行為は刑罰を対象としてしよりされたがハッカーの処罰は見送られていた。しかし、最近のインターネットをめぐる犯罪が増加している例をあげ、最近の刑事政策的対応を、警視庁、郵政省、通産省に分けて基準作りや報告書、提案がなされていることが紹介された。検討課題として、デジタル署名のセキュリティーの強化、プライバシーの保護、改正風俗法で通信の秘密とプロバイダの義務などさらに電子商取引に向けての課題など、多くの問題を提起していただいた。

11. と12. は発表会としてとっていたが、実際は課題の提起とインターネット関係のビデオを見せて理解を深める努力をおこなった。

授業の最後に必ずコメントを書かせるたが、授業の進行にしたがってインターネットと自由にアクセスでき、必要な情報を得られることに関心が高まった。以下は学生に提起したレポートの課題で、3章にはその結果を示す。

### 3. レポートの課題と受講者の反応

本講義が受講者にどのような教育的影響を与えたかを知る目的と、受講者の評価をおこなうために、全12コマの授業の終わりに、以下のレポート課題を与えた。

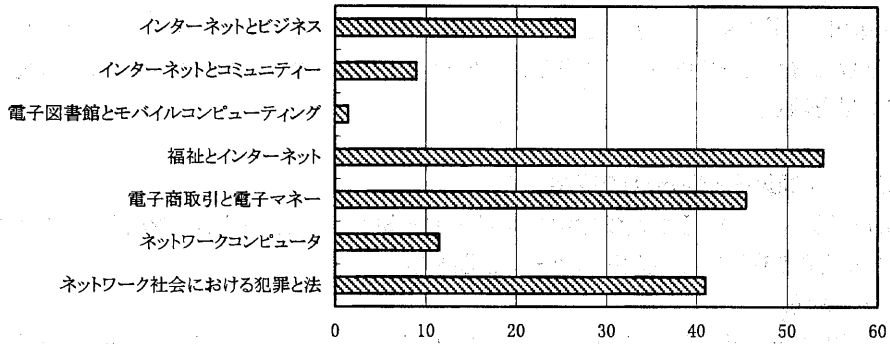
#### レポートの課題

1. 総合コース618「インターネット」について学んだ以下の7項目の中から1つを選択し、関連するホームページを調べ、授業で学んだことも含めてネットワーク社会について論述しなさい。
  - 1) インターネットとビジネス
  - 2) インターネットとコミュニティー
  - 3) 電子図書館（またはモバイルインターコンピューティング）
  - 4) 福祉とインターネット
  - 5) 電子商取引と電子マネー
  - 6) ネットワークコンピュータ
  - 7) ネットワーク社会における犯罪と法
2. 自分が最も関心のある学問分野について、インターネットを使って情報検索し、その結果わかったことをホームページアドレス（URL）と共に記述しなさい。

図6. は1. の課題に含まれる7項目の内、学生が選択した項目についての集計である。集計からそれぞれの項目に対する関心の深さがわかる。7項目の中で、「福祉とインターネット」がもっとも関心が高く、次に「電子商取引と電子マネー」、続いて「ネットワーク社会における犯罪と法」、「インターネットとビジネス」の順である。「電子図書館とモバイルコンピューティング」が少ないのは講師の説明がかなり専門的すぎたためと思われる。同様なことが「インターネットとコミュニティー」にもいえるが、また、学生が、バーチャルな世界で思考できる余裕は、まだなく現実的な世界に関心が向けられている傾向が高いことを示す現われとも思われる。「ネットワークコンピュータ」については、ハード面の興味と、NCを提唱した会社への興味を持った結果と考えられる。「福祉とインターネット」は、講師が「チャレンジドを納税者にするための運動」を提唱し、先頭に立って実践してこられたこと、その結果、チャレンジドが仕事を獲得し納税者になったこと、などをビデオを使って分かり易く解説した。チャレンジという、社会では弱い立場の人々に、インターネットを利用させることによって、参加できる世界を作り上げたわけで、新しい福祉のかたちの呈示と新たな社会的可能性を実現したことに、学生が大きな感動を覚えたからであると思われる。総合コース618を企画した当事者としては、この講義は、知識の獲得だけを目的にしているのではなく、人生の様々な時点において問題解決能力を身につけるこ

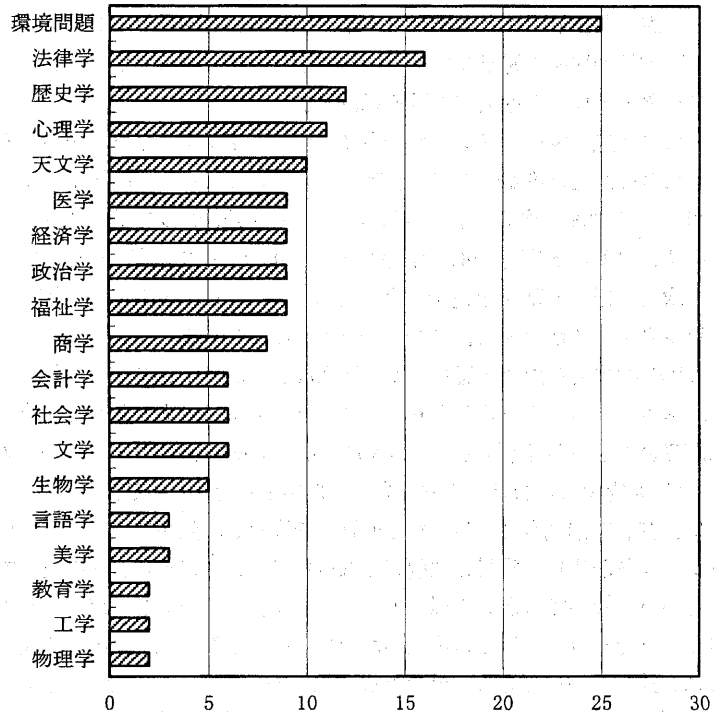
		97年度	98年度	平均値
1	インターネットとビジネス	29	24	26.5
2	インターネットとコミュニティー	13	5	9
3	電子図書館とモバイルコンピューティング	3	0	1.5
4	福祉とインターネット	77	31	54
5	電子商取引と電子マネー	52	39	45.5
6	ネットワークコンピュータ	16	7	11.5
7	ネットワーク社会における犯罪と法	0	82	41
		190	188	189

図6 講義内容で関心度の高いテーマ



環境問題	25
法律学	16
歴史学	12
心理学	11
天文学	10
医学	9
経済学	9
政治学	9
福祉学	9
商学	8
会計学	6
社会学	6
文学	6
生物学	5
言語学	3
美学	3
教育学	2
工学	2
物理学	2
栄養学	1
音楽	1
化学	1
経営学	1
考古学	1
宗教学	1
人類学	1
数学	1
地理学	1
動物学	1
人間科学	1

図7 学生が関心のある項目



とを目的としているため、学生が新しい発想の展開や、ネットワーク社会における可能性について、様々なことを学習してくれたと考えている。「電子商取引と電子マネー」は、電子マネーなどでこれからの社会の仕組みが大きく変わる可能性について講義を通して得たいという意識のあらわれが、レポートから感じられた。特に経済学部や商学部の学生が高い関心を示していた。「ネットワーク社会における犯罪と法」は1997年には殆ど関心がなかったが1998年には急激に増加した。これは、最近ネットワーク犯罪などが、マスメディアなどで話題になっている影響とも思われる。学内でも情報倫理教育への取り組みを行い始めたことによる影響も大いに関係していると考えられる。「インターネットとビジネス」は新しいビジネスチャンスの可能性を呈示したといえる。これによって、ネットワークで新しいビジネスを展開できるような学生が育てばと考えている。この講義のコメントとしては、大学のコンピュータはビジネス利用ができないことを明確にした。

図7は、課題2のテーマに対する集計である。学生が最も関心を持っている項目の集計であるが、最も多かった項目は環境問題である。法律・政治学、歴史学、心理学、天文学、医学、経済・経営学の順で連なっている。環境問題を分けると、環境ホルモン、地球温暖化、ダイオキシン、動物保護、海洋環境、エネルギー問題、自然環境、生命倫理、環境学などがキーワードとなっている。法律・政治学では法学、法律、民法、刑法、少年犯罪、著作権、通信品位法、インターネット犯罪、ネットワーク法、夫婦別姓、暴力団対策法、幼児虐待、行政、人権問題、情報公開法、日米関係、国連などがキーワードとして使われている。歴史学は、中国史、日本史、東洋史などで、心理学では、犯罪心理学、社会心理学など、医学では臓器移植、運動生理学、催眠療法、健康、免疫学など、経済・経営学では、マクロ経済、マーケティング、消費者金融、アジア貿易、金融ビッグバン、会計学、貿易、サイバービジネス、電子商取引、税理士、企業会計審議会、会計制度、簿記、電子マネー、貿易、財政、金融などがキーワードとして検索されている。さらに高齢化問題、介護、年金制度、ボランティアなど福祉にたいするキーワードが目立っている。しかし、全体に占める割合は比較的少ない。文学関係では日本文学、古典、言語学、英語学、古典文学などがあり、その他、社会学、人間科学、天文学、宗教学、考古学、美学、国際理解教育など、様々なキーワードが使われていた。全体としての感想は、世相を反映してか、環境問題や健康への関心が福祉よりも高まっているという印象を受けた。

#### 4. おわりに

総合コース618の目的は、「今ネットワーク社会で何が起きているか？起ころうとしているのか？」を、講義とインターネットを使うことで、学習し、体得することにあるが、レポートや講義での感想文から、受講者に、インターネットをこれからの重要な道具として活用していくきっかけを与えられたこと、情報作法や、ネットワークについての知識も与えられたと確信している。本講義では、設備の関係で、メール利用は別として、インターネットを情報の受信の道具としての使い方しか行っていなかった。しかし、自分でホームページの作成を行い情報発信をおこなって始めてより広い可能性を理解できると考えている。幸いに1998年度の秋学期からは、それが可能な情報環境が整備されたので、今後は、情報の発信をテーマにした新たな総合コースを検討したいと考えている。

参考文献：

- [1] 大隅紀和, 宮田仁: "インターネットと教育 = Internet & education", 黎明書房, (1998.5)
- [2] 村端五郎: "インターネットが開く新しい学校教育", 明治図書出版, (1996.12)
- [3] 岩淵明男: "ネットワークが世界を変える: パソコン1人1台時代: インターネット・パソコン通信でビジネス・家庭・教育に革命", オーエス出版, (1995.12)